

産婦人科

【一般目標】

出生、成熟、妊娠、出産、老化という女性特有の変化を理解し、ヒトの生殖メカニズム、妊娠、分娩、胎児発育の正常と異常を学び、各臓器の良性、および悪性疾患の診断・治療に関する知識を習得するとともに、医師として必要な思考法、面接技能、態度の基本を学ぶ。

【到達目標（行動目標）】

- 1) 患者および家族に医療面接を行い、必要な情報を収集し整理できる。
- 2) モデルを用いて正常女性骨盤内の解剖を理解する。
- 3) 産婦人科の基本診察を見学し、理解する。
- 4) 産婦人科で用いられる主な検査、治療を列挙し概要を述べることができる。
- 5) 細胞診・組織診の基本的な診断法を学ぶ。
- 6) 産婦人科の主な疾患の症候、病態、診断、治療を述べることができる。
- 7) 分娩管理に参加し、分娩の進行や胎児心拍数モニターを読み、医療介入の必要性の有無について意見を述べるができる。
- 8) 診療に必要な知識・情報を適切に検索、収集することができる。
- 9) 収集した情報を基に、POMR（問題志向型診療記録）を作成できる。
- 10) 帝王切開分娩に参加し、手術内容を理解する。
- 11) 新生児の診察を行い、児の子宮外環境への適応と起こりやすい病態を理解する。
- 12) 産婦人科手術の助手として参加し、糸結びなどの基本的手術操作を経験する。
- 13) シミュレーターを用いて腹腔鏡下手術の原理と手技を学ぶ。
- 14) 産婦人科領域における画像診断（超音波・CT・MRIなど）を理解する。
- 15) 胎児超音波検査を見学し、胎児推定体重の測定を実践する。

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日の午前中にオリエンテーションを行い、ポートフォリオを配布するので、実習中に学んだこと、体験したことを実習中毎日記入すること。また、実習中に調べた知識や検索した文献などもすべて綴じ込むこと。
- 2) 第1週の月曜日に指導医を割り当てるので、以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。指導医の受け持つ患者と一緒に診察し、主治医団の一人として入院から退院までの医療に参加すること。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事項については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。これは医師が実際に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用カルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。
- 4) 8時より行われる症例検討会では指導医の指定した症例について主治医のかわりにプレゼンテーションを行う。簡潔に発表できるよう患者情報をまとめ事前に準備しておくこと

【週間スケジュール】

時間	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
8:00	症例検討会	抄読会	術前症例検討会 化学療法検討会	婦人症例検討会	産科症例検討会
午前	手術、処置	手術、処置	外来研修	手術、処置	外来研修
午後	手術、処置	手術、処置	外来超音波研修	手術、処置	外来超音波研修
夕					NICU 検討会

*初日は 7:50 に 4A 病棟カンファレンス室に集合です。

*分娩時は状況に応じて手術や他の実習を離れ分娩に立ち会います。

*宿泊実習を最低 1 回行い、分娩、産婦人科救急診察の立ち合い、見学を行います。

【評価】 15 項目の到達目標が実習中にどの程度達成されたかを評価する。

評価項目	配点
指導者による学生の行動・態度の評価	20
患者とのコミュニケーションの評価	15
症例検討会でのプレゼンテーションの内容の評価	10
記載したカルテの内容の評価	10
ポートフォリオの内容の評価	10
産婦人科領域の知識・理解度の評価	15
分娩見学、医療介入に対する考え方の評価	20

【参考図書】

プリンシプル産科婦人科学 1・2 (武谷雄二、上妻志郎、藤井知行、大須賀穰 監修 メジカルビュー社)
Williams Obstetrics 24 th EDITION (F.G.Cunnigham, K.J. Leveno, S.L.Bloom et al. McGraw-Hill)